2021年12月21日
第３回　不登校に関する調査研究協力者会議

資料　３

ペアレンツキャンプの不登校支援の取り組み

1. ペアレンツキャンプの不登校復学支援の背景と目的

2. ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

3. 不登校支援に対する提言

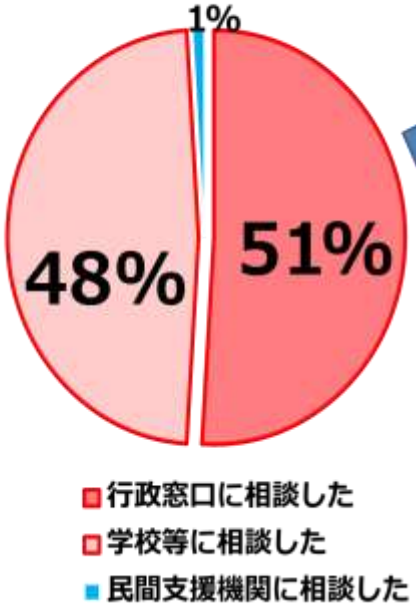
一般社団法人家庭教育支援センターペアレンツキャンプ

代表カウンセラー　佐藤 博

1 ペアレンツキャンプの不登校復学支援の背景と目的

昨今、不登校の子どもたちに対する支援は多様化している。
公的な支援においても民間の支援においてもあらゆるケースの不登校に対応するために整備が進められている。
その中でも、公的な支援を最初の相談窓口にする家庭は多く、その役割の重要性は高まってきている。
民間の支援を選択する家庭の多くは公的な支援を受けても解決できないケースの受け皿として機能している。

最初に相談した窓口はどちらですか？
<ペアレンツキャンプクライエント調査>より　N=353（2020年）



ペアレンツキャンプが支援した家庭の
99%
が最初に相談した窓口は
公的機関

民間の支援を最初に選択する家庭は少ない。

しかし、支援の多くは子ども達への直接的な支援が多く、それを支える家庭や保護者への支援は十分ではない状況と言える。

＜ペアレンツキャンプの支援を受けた保護者の声＞

- 家庭としてどうしてあげたらいいのか悩んでいる
- 学校以外の居場所もあると言われたが子ども自身が望まずどうすればいいかわからない
- 相談しても具体的なアドバイスがもらえない
- そもそも子どもが相談に行くことを拒否する
- なぜ子どもが不登校になったのか分からない

具体的なアドバイスを求めている

1 ペアレンツキャンプの不登校復学支援の背景と目的

家庭を支援していく中で子どもたちの「本当は学校に行きたい」という声を聞くこともある。そういったケースでは復学をサポートする支援も必要。

<ペアレンツキャンプの支援を受けた子どもの声>

- 学校に行けるものであれば行きたい
- 学校以外のところに行くのが怖い
- 勉強の遅れが気になる
- 今更どうしていいか分からない
- みんなにどう思われているか気になる
- 自分だけ取り残されているという不安を感じる
- 学校の友達に会いたい

すべての子どもが学校以外の居場所を望んでいるわけではない

1 ペアレンツキャンプの不登校復学支援の背景と目的

- 保護者は具体的なアドバイスを求めている
- すべての子どもが学校以外の居場所を求めているわけではない

↓

- 家庭を支える家庭教育支援
- 子どもを支えるアウトリーチ型支援手法である訪問カウンセリング

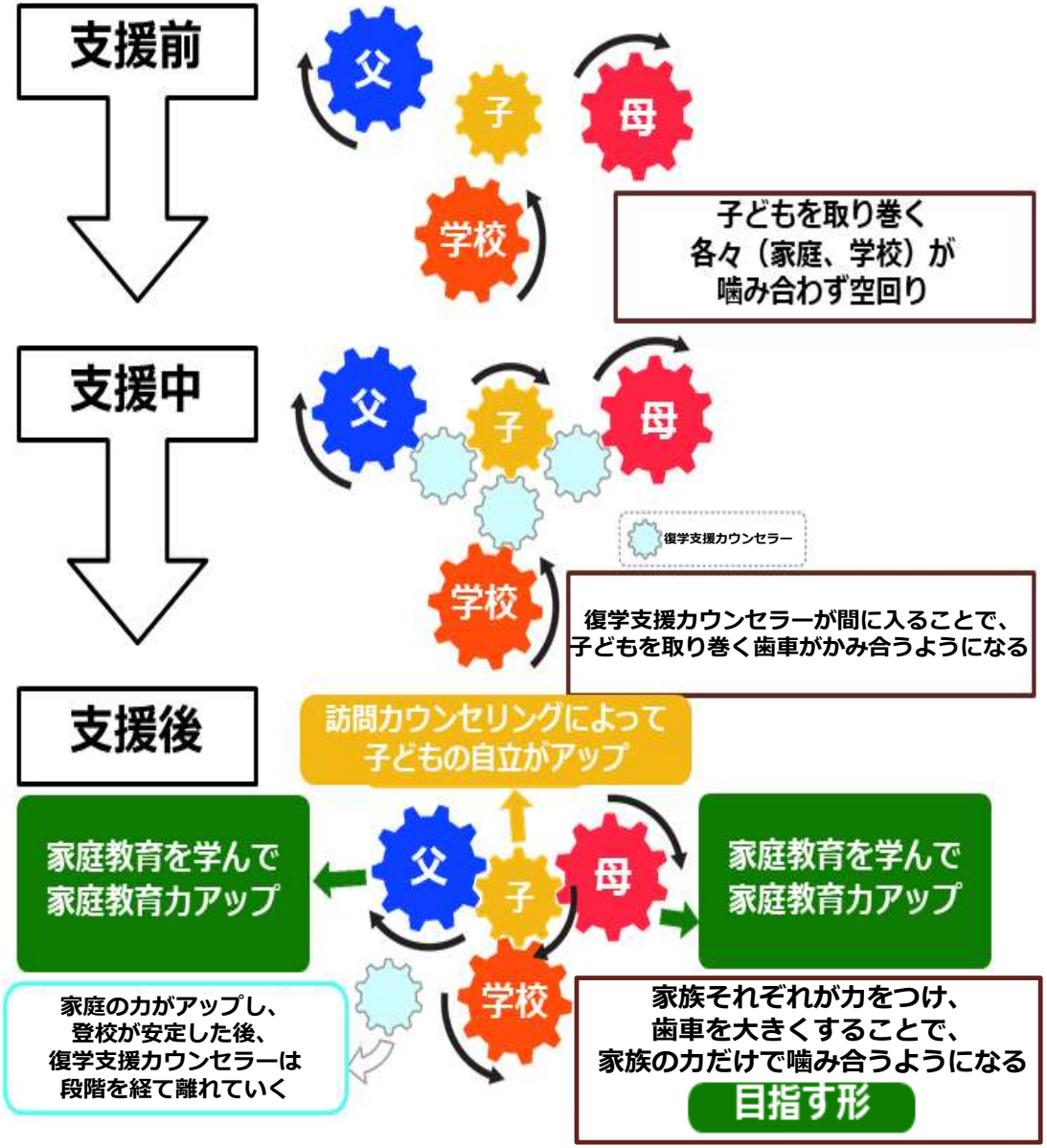
↓

- 家庭も子どもも支えることで復学を目指す

↓

- 復学だけではなく継続登校のサポートをしていくことで**子どもの社会的な自立を目指す**

ペアレンツキャンプの支援イメージ



ペアレンツキャンプの
復学支援は
支援に対して
依存するような状態に
ならないように、
家庭の状況を見ながら
支援を離していく。
最終の目標は
支援がなくても
家庭が子を支える力を
身につけることである。

ペアレンツキャンプとは

ペアレンツキャンプはアウトリーチ型支援手法である訪問カウンセリングを用いた復学支援と通信添削型の家庭教育支援を行っている支援機関。
支援対象は小中学生のお子さんを持つご家庭。

組織名	一般社団法人 家庭教育支援センター ペアレンツキャンプ
本部所在地	〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋2-2-10　ワイズビル8F
本部電話番号	06-6766-4470（代表） 06-6766-4471（FAX）
事業内容	家庭内問題に対する親へのカウンセリング 不登校児童及び生徒への訪問カウンセリング 学校教育と地域教育に関する人材育成及びコンサルティング 家庭教育の普及のための講演活動及び出版活動 前各号に付随または関連する事業

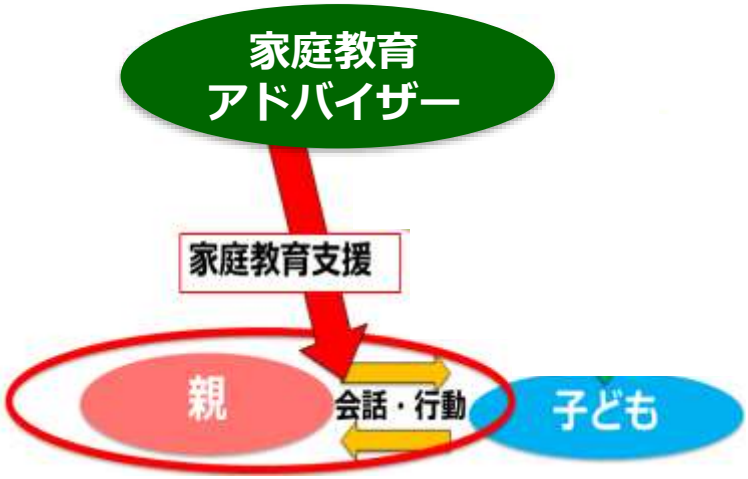
詳しくはこちらをご覧ください　→

HP　https://www.parents-camp.jp/

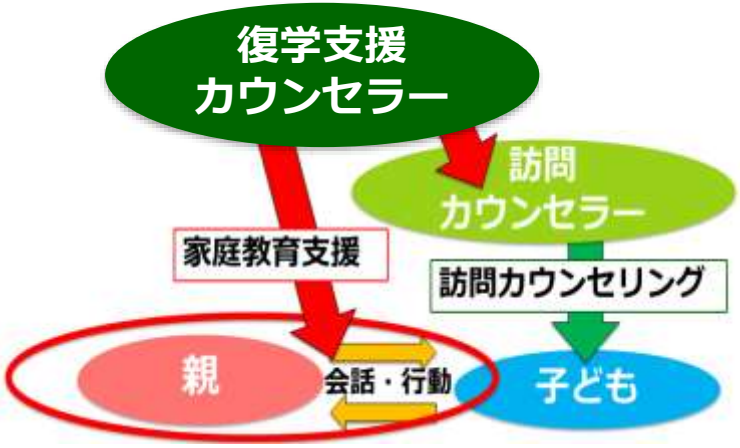
2 ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

２つの支援コースがある。
まずはメールにてご相談を伺う。
メールからできる限りのアセスメントを行い、電話カウンセリングにて
さらに詳細な家庭の状況をヒアリングして支援が行えるケースかを判断する。
ペアレンツキャンプの支援が適さないと判断した場合は他の支援機関へのリファー
等も行う。

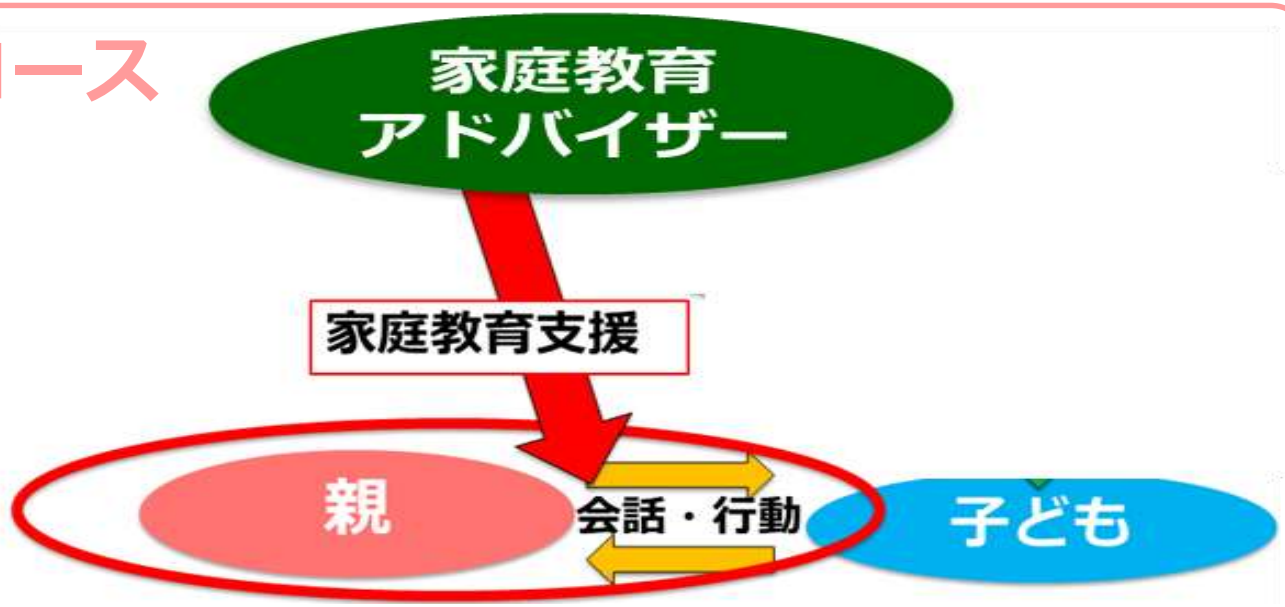
家庭教育支援コース



復学支援コース



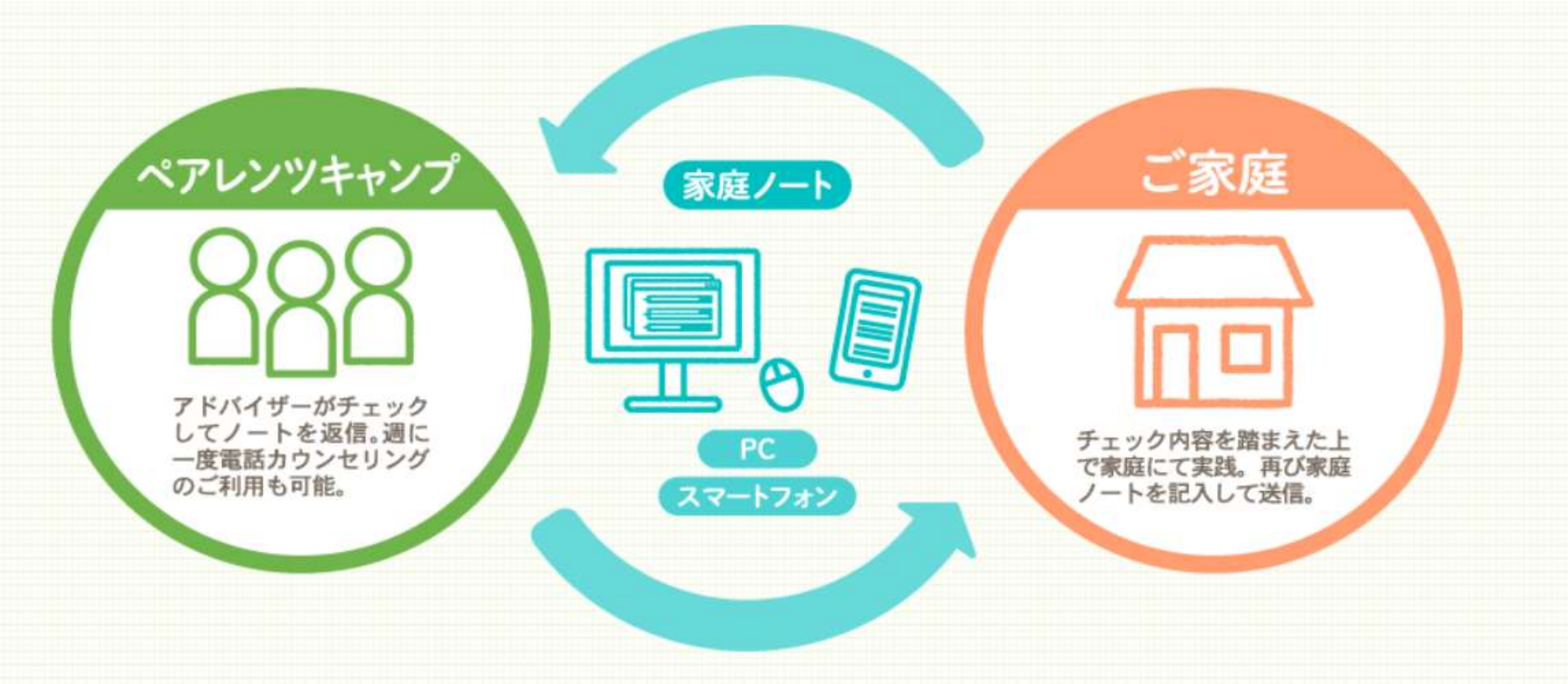
家庭教育支援コース



《家庭教育支援コース（予防・開発型）の特徴》

- 電話カウンセリングと家庭ノートチェック法を用いた完全通信型の支援
- １家庭に１人、担当の家庭教育アドバイザーがつく
- 親と子どもの会話や行動を分析し子どもとの関わり方についてアドバイスする
- 個々の家庭の状況や子どもの性格傾向に合わせて「それぞれの家庭に合った、それぞれの子どものための家庭教育」を構築していく

家庭ノートチェック法



- 親子間のコミュニケーションの様子を記録
- コミュニケーションの様子からアドバイザーが分析
- 分析をもとに保護者へその家庭に合ったコミュニケーションの取り方をアドバイス
- アドバイスを受けて家庭で実践
- この手順を繰り返すことで「その家庭に合った家庭教育」を構築していく

2 ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

スマホやタブレットで利用できる家庭ノートチェック法【実際の画面例】

家庭ノート

家庭ノート | クエスチョンシート | カウンセラーへ

記事の日付 2021-12-01(水) 登校状況 欠席

印刷

07:00

母

7時よ!起きなさい!!
今日も学校に行かないつもり?
いい加減早く起きなさい!

コメント・アドバイス

昨日休んだからと今日も休むと決めつけて感情をぶつけるような言い方は止めておきましょう。
朝から怒鳴って起こされることは気分が良いものではありませんし、決めつけられたことで子どもは親が信じてくれていないと感じ、言われたことに対して子ども感情的になって言い返してしまいかねません。
朝の声かけは時間の声かけだけにしておいてあげましょう。
「7時よ」

子

うるさいなぁ。

コメント・アドバイス

子ども感情的になってしまっています。

母

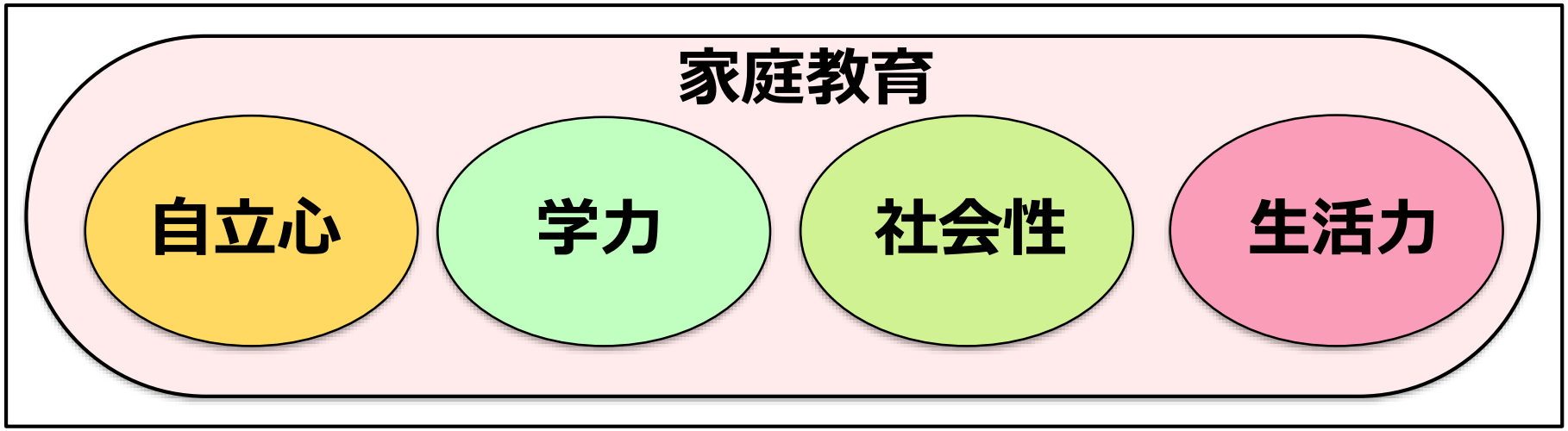
うるさいって何?
今日もこんな時間まで寝てるからでしょう。

コメント・アドバイス

まだ登校時間まで1時間あります。登校していたころの状況をお伺いした時に、彼は起きてから登校するまでの準備にご飯を食べる時間を含めても15分あれば用意できるとおっしゃっていたと思います。その時間からするとまだ彼は寝ていても登校には間に合うはずなので、寝かせておいて様子を見てあげましょう。

子

も~!!ほっとけよ!(目覚まし時計を投げてくる)

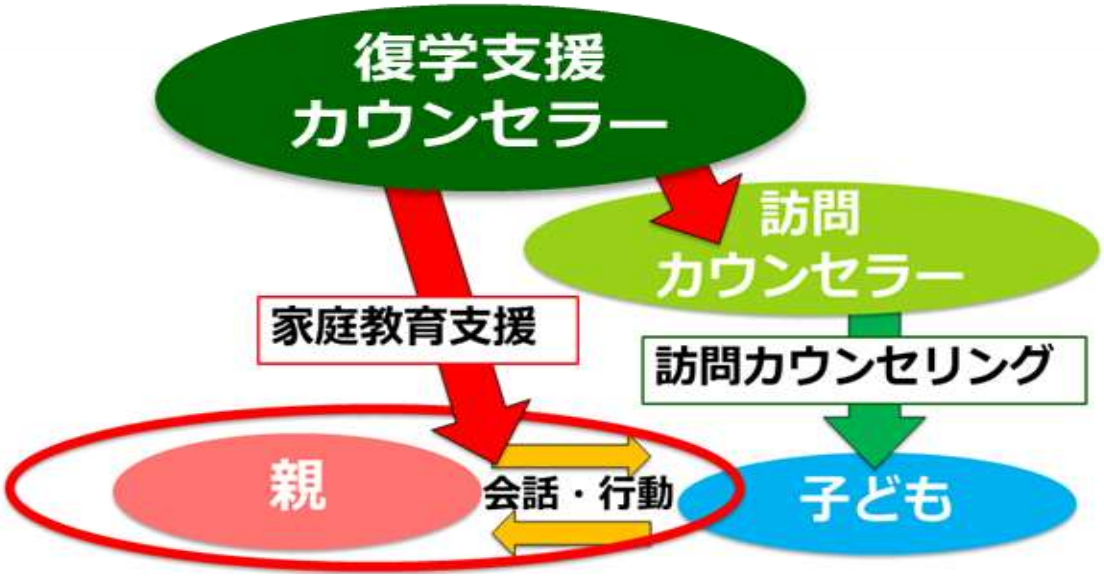


【家庭教育支援を受けることで期待できる効果】

- 子どもの自立心を育むことができる
- 子どもの学力を伸ばすことに繋がる
- 子どもの社会性や協調性が身につく
- 子が生きていく上で必要な生活力が身につく
- 不登校や非行行為を予防できる
- 保護者の子育てに対する不安感の解消につながる

など

復学支援コース



《復学支援コース（解決型）の特徴》

- 電話カウンセリングと家庭ノートチェック法、メールカウンセリングを用いた家庭教育支援とアウトリーチ型支援である訪問カウンセリングを組み合わせて復学を目指す
- １家庭に1人の復学支援カウンセラーが担当につく
- 不登校状態にある子どもの行動は突然変化があることが多く、子どもの状況によっては電話とメールを用いて24時間体制で親からの相談を受ける
- 必要に応じて訪問カウンセラーを家庭に派遣し、子どもを直接サポートすることで復学と継続登校を目指す

ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

不登校に陥るきっかけは様々ある。しかし、その「きっかけ」だけ解決しても不登校は解決しない。解決するためには不登校になる前の子どもの課題と不登校になってからの子どもの課題を分析し、根本の原因を解決する必要がある。

<ペアレンツキャンプの支援を受けた子どもたちの不登校前の課題>

- 我慢力が低い
- 親への依頼心が強い
- 環境への適応力が低い
- 年相応の自立心が身についていない
- 年齢よりも幼い
- 自己肯定感が低い　　など

子ども自身の課題の解決が必要

不登校になる前からの課題が影響して不登校になってから表面化する課題がある。

＜不登校になってから表面化する課題＞

- 昼夜逆転
- ネット依存
- 勉強の遅れ
- 体力の低下
- 赤ちゃん返り
- 自室への引きこもり
- 頭痛、腹痛、吐き気等の体調不良
- 家庭内暴力

不登校になることで起きる課題の解決も必要

2 ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

支援開始

約3ヶ月～6ヶ月間

- 家庭内の状況を分析（アセスメント）します。
- 親御さんに家庭内対応をアドバイスしていきます。

＜復学支援の組み立てで行うアセスメント＞

〇アセスメント　①　「不登校になった原因やきっかけの分析」
不登校になった原因を探る。
子どもの性格傾向の問題なのか・自立の問題なのか・環境の問題なのか など…

〇アセスメント　②　「子どもの性格傾向の分析」
保護者から情報収集を行う。
これまでどのような子育てをしてきたのか・どのような会話をしてきたのか・子どもの性格傾向は親からみてどのように感じるのか・学校の先生から見て子どもの性格傾向はどのように感じるのか　など…

〇アセスメント　③　「不登校になってからの行動分析」
子どもの性格傾向と不登校になってからの行動を分析した上で、どのようなアプローチが必要かを考え、対応を組み立てる。

アセスメントの上でアウトリーチ型支援が必要か判断します。

復学

約1年～1年半

アウトリーチ型支援が必要と判断した場合は、復学に必要な準備（勉強、準備物等）を訪問カウンセラーがサポートします。
例．学校説明、家庭訪問、クラス発表、友達訪問、学校見学　など

継続登校

復学後、登校しているからこそ起こる問題に対するサポートをします。
例．登校時の朝対応、学習、人間関係の悩み、生活習慣の改善　など

ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

2 ペアレンツキャンプの支援手法と取り組み

成果

- 保護者の孤立感の解消
- 子育てに自信が持てた
- 子育てが楽になった
- 子どもを好きになれた
- 子どもの暴力が治まった
- 子どもの生活習慣の改善が図れた
- 子どもが復学を果たしたことにより毎日楽しそうに生活するようになった
- アウトリーチ型支援によるサポートにより高校以降の進路が獲得できた

課題

- 個々のケースに合わせた支援のため支援可能な件数が少ない
- 専門的な支援が必要となるため人材の確保が難しい
- 家庭への経済的な負担がかかる
- 支援可能なケースが限られる（いじめ、重度の発達障害などのケースは支援対象外）
- 家庭教育の重要性の認知がまだまだ行き届いていない

ペアレンツキャンプとしての提言

1　家庭教育支援における行政支援活動の活性化

- 民間支援は個別案件への支援が得意。
- 表面化している問題に対しての支援だけではなく、予防的な支援も必要
- 核家族化や地域とのつながりの希薄化、親の孤立感などの状況を踏まえると保護者に家庭教育の学習機会のサポートや情報を提供するような支援が必要。
- 行政支援では学校や地域の活動との連携が取りやすくユニバーサルな支援活動が可能
- チラシや講演会、子育てサロンなどを用いた周知広報活動が可能
- 基本的には無料で家庭が支援を受けることができる
- 地域人材を活用することでアウトリーチ型の支援も可能

2 不登校支援における類型化

- 不登校の要因は様々
- 家庭の経済状況や親の不登校に対する問題意識も様々である
- 不登校の子どもの類型化は進んでいる
- 子どもの類型化だけではなく家庭の状況についての類型化も進める必要がある
- 子どもの不登校のタイプと家庭の状況の類型とを合わせてみることで子どもに必要な支援と家庭に必要な支援とが同時に見えてくる
- そうすることで取るべき支援手法の判断が早まり、不登校支援をスピード感を持って進めることができる

ご清聴ありがとうございました。